

「日本橋川今昔(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

江戸時代には多くの川岸で賑わった日本橋川も、現在はほぼ全流域を、首都高速の高架線に覆われてしまっている。地形図を見ても、首都高速の道路の記号で覆われ、川がどこにあるのか全くわからない。このように都市化の中で埋もれてしまった地形を浮かび上がらせるには「色別標高図」が最も適している。

下図が日本橋川の全流路を、色別標高図で表現したものである。データは国土地理院から入手し、その後、微地形まで強調表現されるように、私が画像処理した結果である。右側の広大な緑色の地域は「東京低地」、左上の黄色の台地は、武蔵野台地の東端にある舌状台地の一つ「本郷台地」の末端、左側の黄色の台地は、同じく「四谷・麴町台地」の末端である。

▽が神田川からの分岐点、▲が隅田川への合流点で、その間4.8kmの日本橋川の全貌が、おぼろげながら「浮き彫り」になっている。こうして見ると、都心の

一等地で、暗渠にされることもなく生き残った、貴重な河川に思えてくる。まずは、私の自転車通勤経路に沿って、下流側(隅田川側)から、現在のこの川の様子をたどってみたい。



写真は、永代橋から見た日本橋川と隅田川の合流点である。白い橋(豊海橋)の下が、日本橋川の最下流(終点)となる。私は自転車で永代橋を渡ったあと、豊海橋を渡り、日本橋川の左岸(写真では右側)の裏道を通って、文京区まで「遡上」しながら通勤していることになる

